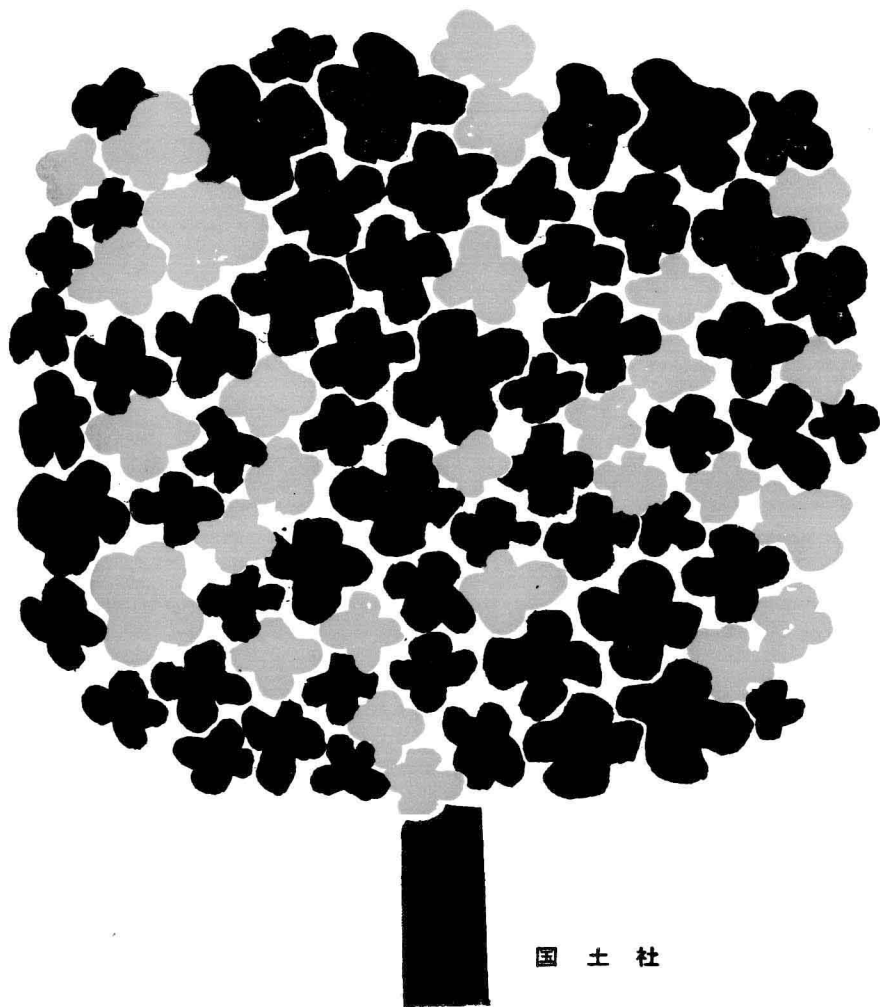




日本演劇教育連盟編

●学級全員のための
学校劇選集

《初 級》



国 土 社

912		
	日	本演劇教育連盟 学級全員の ための学校劇選集(初級) 国土社 昭和41 228P 22cm ○

1960年9月20日 初版発行 ©
 1966年3月10日 8版発行

編者 日本演劇教育連盟

編者との
 了解で検
 印を廃す

定価 450 円

発行人 長 宗 泰 造

印刷所 株式会社 厚 徳 社

学級全員のための
 学校劇選集
 < 初 級 >

発行所 株式会社 国 土 社

東京都文京区高田豊川町42
 振替・東京 90631番
 電話 (943) 3721=(代表)

まえがき

学校で劇を上演するとき、学級の人たち全員が舞台に立つことになったら、それはすばらしいことではないでしょうか。この本は、そこをねらいとしてつくったものです。

学級全員が出演するということになれば、みんながその劇のために力をあわせることになり、だれひとりぼんやりながめているわけにはいきません。学級全員の人たちの心がしっかりむすびつき、おたがいに力をあわせてはげましあうことがだいじです。それはまた、劇というものの、いちばんたいせつなことでもあるのです。



ドンブラコッコ

横山 健

【上演時間 12 分】

7

こぶたのえんそく

安田 浩

【上演時間 12 分】

15

ウサちゃんの月りようこう

比江島 重孝

【上演時間 20 分】

23

大きな石

富田 博之

【上演時間 15 分】

37



☆ サララン、サラランときれいな音をたててながれる谷川に、大きな桃がおちました。きしも、さるも、いぬもこの桃をとろうとしました。

☆ こぶたたちののたのしいえんそくです。そしておいしいおべんとうのとき、それをねらって出てきた、わるがしこいおおかみ……。

☆ かちかち山のうさちゃんが、ロケットにのって月りようこうにでかけました。月からかえったうさちゃんのおみやげは月のうさぎです。

☆ 道のまん中に大きな石がころがって、とおせんぼをしています。みんながとおれるように、なかよく、力をあわせて、石はこび。

学級全員のための
学校劇選集

だけどあの子は

岡田陽

45

【上演時間 15 分】

たすけあい

落合聰三郎

65

【上演時間 13 分】

ふゆさんさようなら

和田たかお

73

【上演時間 15 分】

にわかあめ

斎田喬

83

【上演時間 12 分】



★ よびかけと劇で、いろんな子ども、いろいろなことを、みんな考えてみよう。だけどあの子は、どうしたの？

☆ 白と赤と黄色い花がさいてます。雨です、風です、たいへんです。ちようとありとはちたちは、だれにたすけられたのでしょうか。

★ もう春がくるというのに、冬の王さまはまだがんばっています。春のかみさまや花たちは、すっかりこまっています。

☆ パラパラ、ザーザーにわか雨、花子さんの小さなかさにとびこんできた犬、ねこ、うさぎ、すずめたち。おたがいにいたわりあって。

うさぎのえんそく

栗原一登

【上演時間 13 分】

97

おやすみほたるさん

生越嘉治

【上演時間 18 分】

109

うらしまたろう

粉川光一

【上演時間 20 分】

119

さくらんぼ

小池タミ子

【上演時間 13 分】

131



★ にんげんの子どもみたいになうさはえんそくをしたかったのです。そして、知らない道をききながら、おおかみのいる山の方へ……。

☆ うまれたばかりのほたるさん、かえるのおや子に行きあって、とうさんかあさんがします。さがしつかれて見た空に――。

★ だれでもみんなが知っている日本のむかしはなし「うらしまたろう」のおはなしを、人形などを使って、みんなでやるたのしい劇。

☆ さくらのめ、のびろ。つぼみひらけ。花よみになれ、さくらんぼ。小鳥よ、風よ氣をつけて……。よびかけにこめたねがい。

ゆかいなおまわりさん

143

篠崎徳太郎

【上演時間 15 分】



★ どうぶつの町のにぎやかな大通り。のりものがたくさん通るので、ゆかいなさるのおまわりさんは交通整理に大いそがし。

ポスター見えたか
見えないか

151

内山嘉吉

【上演時間 20 分】



☆ 遠い山のふもとのポスターを、ほんとに見たのだからしら。いぬ、ねこ、ねずみのなかまたち、いい目はぼくだとじまんするのだが。

峠もお祭り

165

森 は な

【上演時間 18 分】



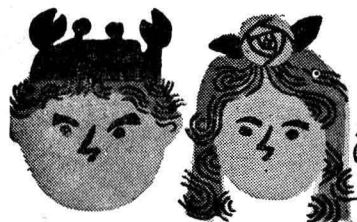
★ 峠のふもとでにぎやかな祭りはやしがきこえます。たぬきの子どもたちも、うきうきして、そのお祭りをやってみたくなんです。

上演の手びき

185

「さくらんぼ」指導の試み

202



楽 譜	あ と が き	作 品 一 覧
208	229	230

編集委員

石原直也

正善達三

漆原喜一郎

高橋昭一

岡部邦三郎

谷川隆二

佐々木博

谷口幸子

装幀

金子国義

装置図

市川禎男

金子国義

関戸紹作

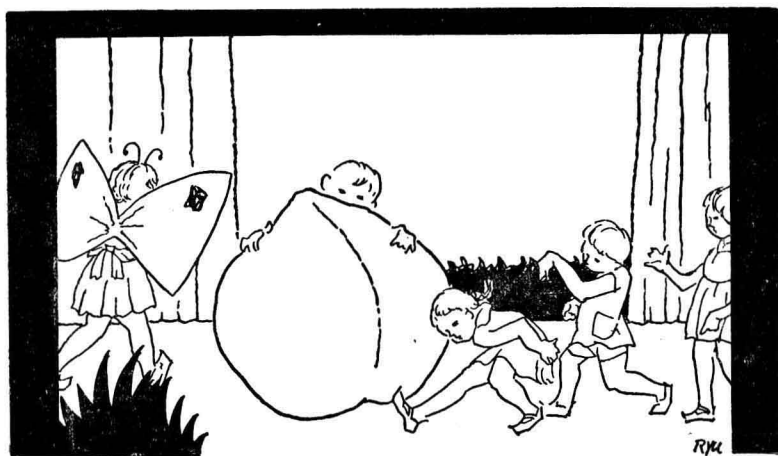
谷川隆二

ドンブラッコ

よこ
横

やま
山

たけし
健



でるもの

桃^{もも}になる子^こども

波^{なみ}になる子^こども（おおぜい）

木^きになる子^こども（おおぜい）

草^{くさ}になる子^こども（おおぜい）

花^{はな}になる子^こども（おおぜい）

ちようちよになる子^こども

きじになる子^こども（三、四人）

さるになる子^こども（三、四人）

いぬになる子^こども（三、四人）

（お話^{はなし}——ある日^ひのこと、きょうのようにいい

お天気^{てんき}の日^ひでしたよ。山^{やま}おくの山^{やま}おくから、

谷^{たに}川^{がわ}が一^{いっ}ぽんながれていました。きれいな水

がサララン、サラランと音^{おと}をたてて……）

サララン サララン サラランラン

サララン サララン サラランラン

波^{なみ}の子^こどもたちがでてきて、音^{おんがく}楽^{がく}にあわせ
て、おどります。

（お話^{はなし}——たのしい歌^{うた}にあわせて、ながれて行^い
きました。そしたら、ほら、大きな桃^{もも}の木^きか
ら、大きなまっかな桃^{もも}のみが一つポトーンと
川^{かわ}の中^{なか}におっこちたのです）

桃^{もも}の子^こどもが紙^{かみ}にかいた桃^{もも}のみを手^てにもつ
て、くるくるおどりながらでてきます。波^{なみ}
の子^こどものあいだを、ドンブラドンブラな
がれるようにおどります。

ボトーン ドブーン ザンブリコ
ボトーン ドブーン ザンブリコ

(お話) おっこちた桃は、水の中へもぐりま
した。それからすぐにポカーンというて水の
上——ドンブラドンブラながれました)

サララン サララン サラランラン
ドンブラ ドンブラ ドンブラコ

(お話) 山おくの、谷川の岸の、たくさん
木や草たちが、ゆらゆらからだをゆすって桃
さんにおわかれをいいました)

木や草の子どもたちが、でてきておどりま

す。手をふって、桃のみにおわかれをし
ます。

ゆらあり ゆらあり さようなら
さらあり さらあり さようなら

(お話) 大きなまっかな桃のみは、だまって
ながれて行きました。あたらしい波の子ども
たちが、つぎからつぎへとうまれてきて、桃
を川下のほうへ、どんどんながしていきまし
た)

草や木の子どもが去ると、波の子たちは、
また桃の子を中心におどります。桃の子が
たつと波の子がしゃがみ、波の子がたつて

おどると、桃の子がしゃがんで、からだを左右にゆらします。

(お話——すると、ケーンケーンと鳴きながら、なにかがやってきました。そうです。きじさんたちです。きじさんたちが、ながれてる桃をみつけたのです)

きじの子どもたちが、鳴きながらでてきます。

きじお あ、大きな桃がながれていく。
 きじみんな まっかな桃がながれていく。
 きじお ももたろうさんはいっているかな？
 みんな ひろおうよ。ひろおうよ。

きじお みんなでぼくをおさえてね。

きじおが、みんなにおちないようにおさえてもらって桃のほうへ手をのびします。とどきません。

ドンブラ ドンブラ あかい桃
 ドンブラ ドンブラ こっちへこ

(お話——けれども、桃のみには手がとどきませんでした。桃はだまってながれていきます)

きじお あの桃は、なんでもない桃さ。
 みんな ももたろうさんなんか、はいっていない桃さ。行こう、行こう。

(お話——とうとうあきらめて、きじさんたちはいってしまいました)

きじの子たちが退場たひじょうします。波の子たちがおどります。

サララン サララン サラランラン

ドンブラ ドンブラ ドンブラコ

(お話——すると、こんどは、さるさんたちがやってきました。さるさんたちも、やっぱり桃のみをみつめました)

さるの子たち、なきながらでてきます。桃ももをみつけておおさわぎ。

さる子 あ、大きな桃がながれてい



さるみんな まっかな桃がながれていく。

さる子 ももたろうさんがはいつているかしら？

みんな ひろおうよ。ひろおうよ。

さる子 みんなでわたしをおさえてね。

さる子がみんなにおさえてもらって、桃の方へ手をのびします。

(お話——でもやっぱりとどきませんでした。桃はだまってながれていってしまいます)

さる子 あの桃は、なんでもない桃よ。

みんな ももたろうさんなんか、はいつていな

い桃さ。行こう、行こう。

いぬの子たちがワンワンワンと鳴きながら
でてきます。

(お話——さるさんたちもあきらめて、行つて
しまいました)

さるの子たちが行つてしまうと、波の子た
ちがおどります。

いぬお あ、大きな桃おおがながれていく。
いぬみんな まっかな桃がながれていく。
いぬお ももたろうさんがはいつているかな。
みんな ひろおうよ。ひろおうよ。

サララン サララン サラランラン
ドンブラ ドンブラ ドンブラコ

(お話——そこで、いぬさんたちも、またおな
じようにして桃をひろおうとおもいました。
でも、でも、やっぱりとどきません)

(お話——すると、こんどはいぬさんたちがや
つてきました。ワンワンワンと鳴なきながら……
……。やっぱりいぬさんたちも桃のみをみつ
けていました)

いぬお あの桃は、なんでもない桃さ。
みんな ももたろうさんなんか、はいつていな
い桃さ。行こう、行こう。

(お話)——いぬさんたちもあきらめて、あっちへ行こうとしました。そのとき、ちようちよさんがひらひらとんできました)

いぬの子たちがいこうとすると、ちようちよの子どもが、おどりながらでてきます。
たのしい音楽。

いぬお (みつけて) あ、ちようちよだ。

みんな ちようちよだ。ちようちよだ。

みんながみていると、ちようちよは、桃のみにちよこんととまります。

(お話)——ちようちよさんが、桃のみにちよこ

んととまりました。まっかな桃のみ、まっしろいちようちよ……)

みんな わあ、とまった。とまった。

いぬお しろいリボンみたいだねえ。

みんな きれいだなあ。きれいだなあ。

みんなは手をたたいてよろこびます。

(お話)——そこでみんなは、パチパチと手をたたいてよろこびました。波^{なみ}さんもおおよろこび。サララン サラランとうたいました。岸^{きし}べの花さんたちも、ゆらゆらゆれながらおどりました。大きなまっかな桃^{もも}のみは、しろいちようちよのリボンをつけて、みんなにみお

くられながらドンブラ ドンブラながれて行
きましたよ。さあみんなで歌^{うた}をうたつて、お
しやれな桃のみをはやしてあげましょうね

波の子たちが桃のみのまわりをサララン
サララン。花^{はな}の子どもたちがたくさんで
きて、みんなのまわりをおどります。いぬの
子たちは手びょうしをとつてうたいます。
桃の子どもは、大きくからだをゆすつてド
ンブラ ドンブラ……。つぎの歌をうたっ
ておわります。

サララン サララン サラランラン
ドンブラ ドンブラ ドンブラコ

大きな まっかな 桃のみは、
ちようちよのリボンを つけました

サララン サララン サラランラン
ドンブラ ドンブラ ドンブラコ

大きな まっかな 桃のみさん
さよなら さよなら さようなら